



®環境省

エコアクション21
認証番号0011220

エコアクション21

環境活動レポート

対象期間:2018年4月～2019年3月



富士運輸株式会社

発行日:2019年5月31日

1 取組の対象組織・活動

社 名 富士運輸株式会社
代 表 者 名 阿部 悦雄
所 在 地 〒756-0847 山口県山陽小野田市新沖3丁目1番13号

環境管理責任者 松尾 優 0836-88-0153

事 業 内 容

一般区域貨物自動車運送事業
産業廃棄物収集運搬業
許可都道府県名:山口県, 広島県, 福岡県, 熊本県, 大分県, 岡山県
特別管理産業廃棄物収集運搬業
許可都道府県名:山口県, 広島県, 福岡県, 熊本県、大分県

創 立 昭和39年7月27日

資 本 金 1,000万円

従 業 員 数 75名

事 業 年 度 4月から翌年3月

売 上 高 969百万円(2018年度)

敷 地 面 積 9,825m²

認証・登録範囲 全組織・全活動

2 環境方針

【環境方針】

富士運輸株式会社は、深刻化する環境破壊を防止するため、企業活動のあらゆる面で環境保全活動を積極的に推進させ、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境負担を継続して低減してまいります。

【基本方針】

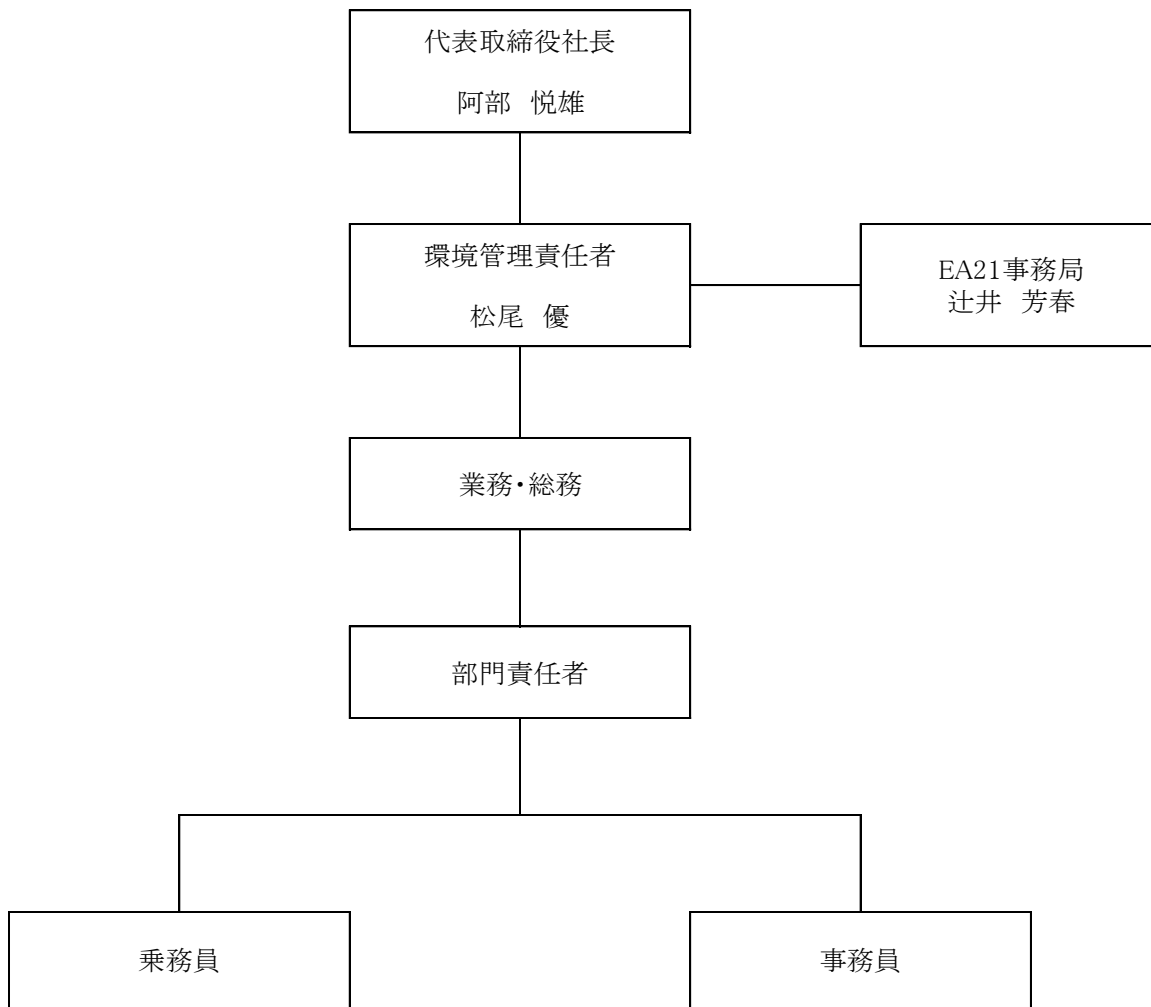
- ① 法令を遵守し、環境保全に努めます。
- ② 物流サービスの提供に際し、地球温暖化対策を行います。
- ③ エコ・ドライブ・エコオフィスなど省エネルギー運動を推進します。
- ④ 環境保全に関する教育と啓蒙活動を実施します。
- ⑤ 廃棄物の適正処理を行い、4R運動を推進します。
 - ・ Refuse(リフューズ) : 過剰包装など、ごみになるものを断る
 - ・ Reduce(リデュース) : 買う量・使う量を減らす。
 - ・ Reuse(リユース) : ゴミにしないために繰り返し使う。
 - ・ Recycle(リサイクル) : 捨てる時は資源にして再利用する。
- ⑥ グリーン商品購入を積極的に推進します。
- ⑦ 本方針は文書化しホームページに記載するとともに、社外から要求があれば開示します。
- ⑧ この方針は様々な機会を通じて全ての従業員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

2018年4月2日

富士運輸株式会社

代表取締役社長 阿部 悦雄

3 実施体制



責任者	役割
代表取締役	環境方針の策定を行い、EA21の取組状況の評価・見直しおよび必要な指示を行う。
環境管理責任者	代表取締役の指示を受けEA21を構築・維持するとともに運用状況を報告し必要な指示を行う。
EA21事務局	データを集計・解析し、見直しに必要なデータの報告を行うとともに環境レポートの作成を行う。
各部門責任者	環境管理責任者の指示を各部門員に指示・伝達し環境方針に則り業務を遂行させる。

4 2018年度・環境目標及び

その実績・評価並びに中長期環境目標

項目	目標・実績	単位	2014年度	2018年度			2019年度	2020年度	2021年度
			実績値 (基準値)	目標値 (基準値比)	実績値 (目標値比)	目標の 評価	目標値 (基準値比)	目標値 (基準値比)	目標値 (基準値比)
1	二酸化炭素 総排出量	kg-CO ₂	3,769,960	3,543,762 以下 (△6.0%)	3,722,983 (5.1%)	△	3,536,222 以下 △6.2%	3,528,683 以下 △6.4%	3,521,143 以下 △6.6%
1-1	電力使用量	kWh	113,968	107,130 以下 (△6.0%)	108,307 (1.1%)	△	106,560 以下 △6.5%	105,990 以下 △7.0%	105,420 以下 △7.5%
1-2	軽油使用量	L	1,385,165	1,302,055 以下 (△6.0%)	1,375,463 (5.6%)	△	1,299,285 以下 △6.2%	1,296,514 以下 △6.4%	1,293,744 以下 △6.6%
1-3	燃費	km/L	3.47		3.36 (△3.2%)		3.47 以下 0.0%	3.47 以下 0.1%	3.48 以下 0.2%
1-4	ガソリン使用量	L	2,698	2,536 以下 (△6.0%)	2,040 (△19.6%)	◎	2,523 以下 △6.5%	2,509 以下 △7.0%	2,496 以下 △7.5%
1-5	灯油使用量	L	19,238	18,084 以下 (△6.0%)	13,630 (△24.6%)	◎	17,988 以下 △6.5%	17,891 以下 △7.0%	17,795 以下 △7.5%
1-6	LPガス使用量	kg	50.1	47 以下 (△6.0%)	50.1 (6.4%)	△	48 以下 △5.0%	47 以下 △5.2%	47 以下 △5.4%
2	ウエス リユース品率	%	-	(100.0%)	(100.0%)	◎	100%	100%	100%
3	低公害車の 導入率	%	83.8	85.5 以上 (2.0%)	90.0 (5.3%)	○	85.9 以上 2.5%増	86.3 以上 3.0%増	86.7 以上 3.5%増
4	総排水量 (使用水量)	m ³	3,169	2,979 以下 (△6.0%)	2,663 (△10.6%)	◎	3,137 以下 △6.5%	2,963 以下 △7.0%	2,931 以下 △7.5%
5	グリーン購入 の推進	品目数	0	3 —	5 (76.7%)	◎	4 —	5 —	6 —
6	環境美化活動	実施 回数	1回/年	1回/年 ±0%	1 ±0%	○	1回/年 ±0%	1回/年 ±0%	1回/年 ±0%

判定: ◎:削減・増加率10%超 ○:10%以下~0%以上 △:0%未満~10%増 ×:10%超・増

※1 二酸化炭素排出係数は中国電力平成26年度0.706kg-CO₂/kWhを使用しました。

※2 化学物質の使用はないので目標に掲げていません。

※3 運送量が毎年増加する中で、二酸化炭素総排出量目標を修正しました。

※4 1-3の燃費については、重要項目として2019年度から新設しました。

5 2018年度 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の6%削減

取組項目	活動項目	責任者	活動計画			
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
1 電気使用量 6%削減	1 冷暖房温度の徹底管理 (冷房26℃、暖房22℃)	松尾	←	実行	→	
	2 フィルターの定期的な清掃					
	3 残業時の不要な照明の消灯					
	4 PCを省電力設定で使用					
	5 買替の際は、省エネ機器に更新					
2 軽油・ガソリン 灯油 使用量 6%削減	1 エコドライブの励行	佐々木	←	実行	→	
	2 アイドリングストップの厳守					
	3 配車計画の合理化					
	4 急発進・急加速・急ブレーキ不要の運転					
	5 不要荷物の積み込み禁止					
3 灯油使用量 6%削減	積込スケジュールの調整	佐々木	←	実行	→	
4 LPガス使用量 6%削減	使用時間の短縮	—	←	実行	→	

2. 4R運動

取組目標	活動項目	責任者	活動計画			
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
ウエス リユース品 100%	ウエス リユース品利用	松尾	←	実行	→	

3. 低公害車の導入 85.5%

取組目標	活動項目	責任者	活動計画			
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
台数の増加		上野	←	車両購入時	→	

4. 総排水量の6%削減

取組目標	活動項目	責任者	活動計画			
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
水使用量の削減	細かい節水に努める	佐々木	←	実行	→	

5. グリーン購入の推進 3品目

取組目標	活動項目	責任者	活動計画			
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
グリーン商品の品 目増加	社内備品を3品目グリーン商品へ変更	関根	←	実行	→	

6. 環境美化の推進 年間2回

取組目標	活動項目	責任者	活動計画			
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
実施回数の 増加	小さな親切運動 「日本列島クリーン作戦」他	松尾	←	実行	→	

6 2018年度 環境目標・環境活動計画の取組結果およびその評価

環境目標	主な環境活動計画	2018年4月～9月		判定	2018年10月～3月		判定
		実績	削減率(%)		実績	削減率(%)	
二酸化炭素排出総量 (kg-CO ₂)		1,722,902	△ 2.8	○	2,000,081	12.9	×
		1,771,881			1,771,881		
電気使用量 (kWh)	冷暖房温度の徹底管理	33,941	△ 36.6	◎	58,783	9.7	×
		53,565			53,565		
軽油使用量 (ℓ)	エコドライブの励行 アイドリングストップの厳守	637,553	△ 2.1	○	737,909	13.3	×
		651,028			651,028		
ガソリン使用量 (ℓ)	エコドライブの励行 アイドリングストップの厳守	1,214	△ 4.3	○	826	△ 34.9	◎
		1,268			1,268		
灯油使用量 (ℓ)	積込スケジュールの調整	5,200	△ 42.5	◎	8,430	△ 6.8	○
		9,042			9,042		
LPガス使用量 (kg)	使用時間の短縮	10.0	△ 57.4	◎	40.4	71.9	×
		23.5			23.5		
総排水量(使用水量) (m ³)	細かい節水に努める	1,283	△ 13.9	◎	1,380	△ 7.4	○
		1,490			1,490		
ウエス リユース (%)	4運動推進	100	±0	○	100	±0	○
		100			100		
グリーン購入 (品目数)	グリーン商品に切り替える	1	±0	○	5	±0	○
		合計1			合計2		
環境美化活動 (回/年)	小さな親切運動他	1	±0	○	1	±0	○
		1			0		
記録日	—	H30.10.12			H31.4.13		
評価者 (松尾優)	—	一年通じて車両に載せたままのタイヤチェーンを車両から降ろす等を行ったが走行距離の増加等あり、燃費が伸びず。電気代は4～6月での不要なエアコンの使用を抑えられた事もあり、大幅な削減ができた。			燃費は、走行距離の増加や、運転時のアイドリング、エンジン回転数増により目標未達となった。全員の燃費への取組み、更なる動機づけが必要。電気使用量はエアコン使用、蛍光灯他注意しており削減が定着できている。		

※ 上段(網掛け)は実績値、下段は目標値

※ 判定: 削減・増減率の達成率 ◎: △10%超 ○: △10%↓

7 2018年度・環境活動計画の取組結果と

その評価、次年度の取組内容

活動項目	取組結果及び評価	次年度の取組内容
総合評価	二酸化炭素排出量は基準値2014年度比6%削減を目標としていたが、実績は5.1%の増となり目標を達成できなかった。弊社の環境負荷は貨物輸送で発生する二酸化炭素の排出が主であるが、仕事量増加に伴い、走行距離も年々増加し排出量は増えている。運送を行う以上排出をなくすことは不可能であるため、燃費向上や低公害車への買換えを継続して実施していくことで、二酸化炭素の排出量削減を行っていく。	総合的な環境対応を可能にするため、各社員の環境に対する意識をさらに高める。低公害車導入と併せ、燃料費削減と環境面で大きなウエイトを占める軽油使用量削減の為にエコドライブへの意識を高め、燃費改善に努めていく。
電力使用量	電気使用量では基準値比の△6%を目標に設定していたが、太陽光発電故障の影響で、発電量が年間平均以下となったこともあり目標未達成となった。年間の平均発電量は7,000kwhを超える為、正常に稼働していた場合は目標達成出来ていたことも考えられる。	経費削減、生産性の向上、目標管理を徹底する。また、太陽光発電の適正な維持に努める。
軽油使用量	仕事量の増加に伴い走行距離増加したため、使用量が増した。過去4年走行距離が伸び続けており、二酸化炭素削減するには燃費を改善し使用量を減らすことが重要であると考えられる。	乗務教育やホームページなどでルールを掲載し問題意識を持ち続けるよう働きかけ、意識向上を図る。
燃費	燃費は基準値の2014年度と比較し3.2%増加している。エアコン使用時間は、年平均の推移をみると大きな変化はなかった為要因として影響はないと考えられる。残る要因としてエコドライブへの意識の低下、エコドライブのルールが守られていない事が考えられる。	低燃費運転、アイドリング時間等のルールの徹底を行う。
ガソリン使用量	目標に対し19.6%の大幅削減が出来た。要因として乗用車の使用頻度の低下が考えられる。併せて低公害車やハイブリッド車への買替えによって燃費の向上を図った。	無駄な社用車の使用の削減徹底、更なる削減を目指す。
灯油	目標に対し24.8%と大きく達成できた。弊社の灯油使用量はアスファルト配送時保温する際に使用するもので、オーダーによるところが大きい。	受注量により、灯油の使用量が大きく左右されるが、目標の達成を徹底したい。
LPガス使用量	健康経営の一環で職場環境の改善を行い、シャワールームを改装し、自由に使用できる環境作りを行った。結果、シャワールームのLPガス使用量が上がり増加につながった。	LPガスは、シャワー等使用量は増加しているが、歯止めをかけ削減に取り組んでいきたい。
ウエス・リユース品	ウエスのリユース品使用率100%。	適度な目標を設定するとともに、実効性のある環境活動計画を策定する。
低公害車導入	低公害車の購入は、ほぼ目標達成できている。環境への意識の向上とともに、燃費等に与える影響も大きく、更なる購入を計画的に実施する。	予算を考慮しつつ、代替えにて環境対応を徹底する。
総排水量(使用水量)の削減	使用量の内訳をみると、日々の洗車や荷箱洗浄が大きく影響するが、節水ノズルの設置・適切な維持管理とあわせ、節水意識により環境維持に努めている。	洗車機、ホースノズル等の維持管理に取り組む。
グリーン購入の推進	目標の3品目に対し5品目数増やすことが出来き、38品目から43品目となった。引き続きグリーン商品へ代替できるものがあるか検討し増やしていく。	導入可能品目を検討し、可能な限り品目増加に取り組む。(4品目増の47品目を目標とする)
環境美化	小さな親切運動「日本列島クリーン作戦」、会社周辺の清掃作業の実施。	継続して積極的に参加をしていく。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法の遵守状況をチェックの結果違反はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去50年間ありません。

9 許可の内容・施設の状況・処理実績

産業廃棄物			
自治体	許可番号	許可年月日	許可期限
山口県	第03506012583号	平成28年11月1日	令和5年10月31日
広島県	第03400012583号	平成23年10月26日	令和3年10月25日
島根県	第03200012583号	平成30年7月10日	令和7年5月24日
福岡県	第04000012583号	平成29年7月30日	令和6年7月29日
大分県	第04402012583号	平成27年10月19日	令和2年10月18日
熊本県	第04305012583号	平成27年10月6日	令和2年8月10日
岡山県	第03300012583号	平成29年8月15日	令和6年7月31日
特別管理産業廃棄物			
自治体	許可番号	許可年月日	許可期限
山口県	第03556012583号	平成27年12月1日	令和2年11月30日
広島県	第03450012583号	平成28年10月26日	令和3年10月25日
福岡県	第04050012583号	平成29年10月23日	令和6年10月22日
大分県	第04402012583号	平成31年3月14日	令和6年3月13日
熊本県	第04355012583号	平成29年5月12日	令和6年3月4日

廃棄物の種類		山口県	広島県	島根県	福岡県	大分県	熊本県	岡山県
産業 廃棄物	燃えがら	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	汚泥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	廃油	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	廃酸	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	平成29年4月2日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	廃プラスチック類	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	紙くず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	木くず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	繊維くず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	動植物性残渣	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ゴムくず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	金属くず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ガラス・陶磁器・コンクリート	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	銲さい		◎			◎		◎
	がれき類	◎	◎	◎		◎		◎
	ばいじん	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
13号廃棄物								
特別 管理 産業 廃棄物	汚泥	◎	◎		◎	◎	◎	
	廃油	◎	◎		◎		◎	
	廃酸	◎	◎		◎		◎	
	廃アルカリ	◎	◎		◎		◎	
	ばいじん				◎			
	感染性廃棄物	◎	◎					
	廃PCB等 廃石綿等	◎	◎		◎		◎	

運搬車両の種類と台数		
車種	最大積載量/kg	台数
タンク	13,900	1
タンク	11,100	2
タンク	10,900	1
ダンプ	10,600	1
ダンプ	10,300	1
ダンプ	9,500	1
ステーションワゴン		ー

2018年度収集運搬実績

2018年4月～2019年3月)

処理方法等	廃棄物等種類	収集運搬量(t)
収集運搬	燃え殻	0
	汚泥	5,269
	廃油	2,877
	廃酸	110
	廃アルカリ	2,156
	廃プラスチック類	302
	紙くず	0.64
	木くず	4
	金属くず	0
	水銀含有ばいじん	28
	ばいじん	31
	廃油(特管)	876
	廃酸(特管)	9.73
	廃アルカリ(特管)	2,161
	廃油(特管 有害)	0
	廃アルカリ(特管 有害)	0
収集運搬量合計		13,812

・積替保管施設:なし

10 代表者による全体の取組状況の評価 及び見直しの記録

評価および見直しの実施年月日	平成31年4月27日	
評価者名(代表者名)	阿部 悦雄	
評価及び見直しに参加した人	阿部 悦雄, 松尾 優	
提出した情報(資料等)	各種採取データ表	
評価	環境経営システムが有効に機能しているか	軽油使用量は、2018年上半期は目標値達成、しかし2018年下半期は仕事の繁忙期で使用料は増加に転じ改善が必要となっている。燃費については平成26年度実績に比べ3.2%増加しており、低公害車への入れ替えや、運転中のエコドライブ意識を更に高める必要がある。
	環境への取組は適切に実施されているか	二酸化炭素総排出量は、基準値より5.1%削減出来ているものの、30年度目標は未達となっており、ガソリン・灯油使用量の増加や燃費の改善など取り組むべき点は多く更なる改善に注力していく方針。
見直し (変更の 必要性)	環境方針 変更の必要性	変更の必要はなく継続する。
	環境目標 変更の必要性	今回の実績を踏まえて、環境目標を見直す必要がある。
	環境活動計画 変更の必要性	変更後の環境目標に沿った環境活動計画を策定する必要がある。
	環境経営システム等 変更の必要性	変更の必要はなく継続する。